

令和2年度第1回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録

開催日	令和2年10月15日(木)	時間	13時45分 ～14時15分	場所	市立伊丹病院 くすのき講堂
出席者	<p>委員： 吉村委員長(伊丹市医師会会長)、栗田委員(宝塚市医師会会長)、藤末委員(川西市医師会会長) 木村委員(三田市医師会会長)、八田委員(尼崎市医師会会長) 森田副委員長代理として飯田委員(伊丹市歯科医師会副会長)、千葉委員(伊丹市薬剤師会会長) 清水委員(兵庫県伊丹健康福祉事務所長)、福井委員(伊丹市消防局長)、大橋委員(伊丹市健康福祉部長)、荒崎委員(川西市健康増進部長)、岡野委員(学識経験者)、中田委員(伊丹市病院事業管理者)、飯石委員(市立伊丹病院病院長)、中村委員(市立伊丹病院地域医療連携室主任部長)、伊東委員(市立伊丹病院地域医療連携室部長)、竹原委員(市立伊丹病院看護部長)</p> <p>委任状： 赤井委員(宝塚市健康福祉部長)、入江委員(三田市福祉共生部長)、田中委員(市立伊丹病院事務局長)</p> <p>オブザーバー(市立伊丹病院)： 筒井(副院長)、三木(診療部長)、下山(診療部長)、濱口(診療部長)、太田(歯科口腔外科主任部長)、萩原(放射線診断科主任部長)、河内(医療技術部室長)、上田(薬剤科長)</p>				
議題内容	<p>■ 開会のごあいさつ 前任の常岡委員長より引き継ぎまして、委員長を務めさせていただきます吉村と申します。今年はコロナで始まってコロナで終わるといような、いろいろところでコロナの影響を受けております。市立伊丹病院の地域医療におきましてもコロナの影響は受けていると思いますけれども、その辺りも含めて事務局より報告をお願いしたいと思いますので、皆様の活発なご意見等お願いいたく存じます。よろしくお願いたします。</p> <p>■ 委員紹介 席次順に紹介 出席者過半数を超えているので本会は成立することを報告。 本委員会は「公開等および傍聴についての要綱」第2条ならびに第3条による公開となっており開催案内したが傍聴希望者は無。 ・本委員会は議事録作成のため録音している ・会議録の記載内容 1.開催の日時および場所 2.出席した委員、臨時委員、専門医委員および関係人の氏名 3.議題およびその内容 4.議題の要旨 5.議決事項 6.その他委員長が必要と認める事項 討議の中での発言内容、発言者の氏名は記載無し 第18条により 会議録は市立伊丹病院ホームページにて公開</p> <p>■ 議事署名人の指名について(2名) ・吉村委員長より指名 飯田委員、福井委員に依頼したい。 両者共に了承。</p> <p>■ 議事 1) 紹介患者に対する医療提供について 資料 1-① 1-② 1-③-1 1-③-2 1-④-1 1-④-2 1-⑤-1 1-⑤-2 に従って説明 コロナ禍の関係で今年度初めての開催となるため、平成31年度と令和2年度上半期のデータについて報告する。</p>				

資料 1-①

平成 31 年度紹介率 85.7% 逆紹介率 112.8%で、令和 2 年度上半期紹介率 80.8% 逆紹介率 100%で承認要件を満たしている。

資料 1-②

平成 31 年度は、前年比較し外来患者数は減少しているが、紹介患者数においては診察依頼、入院目的、検査依頼共に増加。令和 2 年度上半期においては、コロナ禍による影響で外来患者数、紹介患者数共に減少。紹介患者数においては、診察、入院、検査依頼共に減少している。

資料 1-③-1

平成 31 年度科別紹介患者入院率では、全入院患者の 40.8%が紹介を受けた患者であり、前年度と比較し増加している。(前年 36.9%)。

資料 1-③-2

令和 2 年度上半期科別紹介患者入院率では、全入院患者の 37.3%が紹介を受けた患者であり、前年度と比較し減少している。(前年 40.8%)。

資料 1-④-1

平成 31 年度患者住所地別紹介患者数では、伊丹市、宝塚市、尼崎市、川西市の順となっている。

資料 1-④-2

令和 2 年度上半期患者住所地別紹介患者数においても、前年度同様、伊丹市、宝塚市、尼崎市、川西市の順となっている。

資料 1-⑤-1

平成 31 年度地域医療連携室利用割合では、紹介患者の 81%が地域医療連携室を利用され受診された(前年度より 1%の増加)。

資料 1-⑤-2

令和 2 年度地域医療連携室利用割合では、紹介患者の 84%が地域医療連携室を利用され受診された(前年度より 3%の増加)。

2) 救急医療の提供について

資料 2-①、資料 2-②に従って説明

資料 2-①

平成 31 年度においては、前年度と比較して、救急車搬送数、救急車以外(独歩)での来院共に減少、令和 2 年度上半期においても同様に減少している。

資料 2-②

平成 31 年度の救急搬送お断り率は、15.6%で前年度と比較し 3.8%増加した。

令和 2 年度上半期は、19.3%で前年度と比較し 3.7%増加した。

→コロナ禍において感染予防等を考慮した診察場の関係で、お断りをしなければならない状況、また、対応に時間がかかる場合においては、救急隊側より見合わせる旨の回答となり件数が増加した。

→地域医療機関においても、発熱患者を難民にするわけにはいかないため、コロナ感染のトリアージだけでも対応できるように体制を検討しているところである。

3) 地域の医療従事者に対する研修について

資料 3 に従って説明

平成 31 年度、地域医療従事者対象研修会は 28 回開催した。院内の出席者はのべ 1380 名、院外からは 504 名の参加。承認要件の年間 12 回以上開催を満たしている。

令和 2 年度上半期においては、6 回開催した。院内の出席者はのべ 15 名、院外からは 143

名の参加となっている。

→内容に応じ Web 研修も実施している

4) 開放病床の運用実績について

資料 4 に従って説明

平成 31 年度の利用率は 3.6% (前年度は 3.4%)、令和 2 年度上半期の利用率は 3.6%で前年度と同様。

5) その他

・歯科医師会としては、年に 2 回の病診連携協議会や医歯病診連携勉強会の開催、学術講演会への講師派遣等、市立伊丹病院にはご支援、ご協力いただき大変感謝している。

・新型コロナウイルス感染症に関する情報(職員の感染)が、市立伊丹病院からファックスで送られてくるが、2 類感染症であるから義務的にお知らせをいただくのか、5類感染症になっても引き続き情報を流すのか。

→ 法的に必要か不確かであるが、ホームページ上にも挙げており、患者への配慮を含め周囲の医療機関に有効な情報として提供しているので、5類になっても世間から注目されている感染症でもありますので、引き続き情報は流していく予定。

■ 閉会のごあいさつ

本日までご出席いただきましたみなさまには、通常の診療や業務に加えて新型コロナウイルス感染症の対応でお忙しい中ご出席くださり誠にありがとうございました。

今年は 2 月に始まった新型コロナ感染症の流行を受けて、例年であれば春と秋に開催しております本委員会を本日の 1 回だけ開催することになりました。従いまして今回は昨年度と今年度前半をまとめてご報告いたしました。昨年度ならびに今年度もみなさまには大変お世話になり、お蔭様でさきほどご報告申し上げましたように地域医療支援病院としての要件をクリアすることができました。これもひとえに委員のみなさまのご支援の賜物と感謝申し上げます。しかしながら、今年前半の初診患者数は、昨年に比べ約 25%減となっており厳しい状況です。ちなみに入院患者数も 4 月と 5 月は前年度比約 20%減となっていましたがお蔭様で 7 月以降は少し持ち直しています。昨年度の救急車の受け入れ件数は 4,300 件あまりで前年度に比べて少し減少し、お断り率は残念ながら 15.6%と 4 ポイントほど高くなってしまいました。今年度前半は、これも新型コロナの影響と思われるが、救急搬送数が昨年度の 3 分の 2 に減っています。お断り率も 19.3%とさらに高くなっていますが、これは発熱患者を陰圧室で診察するなど一人の診察に要する時間が長くなったことが大きな要因と考えています。

ここで、当院における新型コロナの診療についてご報告いたします。3 月 19 日から一病棟を新型コロナ専用病棟とし、軽症・中等症患者用として 13 床を県に申し出て入院診療を行いました。多いときには入院患者が 10 人を超えることもありました。4 月、5 月頃にはアイソレーションガウン、サージカルマスク、N95 マスクや手指消毒用アルコールの在庫が逼迫しましたが、その後は県からの援助や企業や個人の方からの寄贈などがあり、また消費量を減らす工夫などをして、現在では潤沢とまでは言えませんが危機的な状態は脱しています。9 月末までの総入院患者数は 120 人、帰国者接触者外来での PCR 検査、抗原検査は 1140 人に達しています。そのうち 88 人 (7.7%) が陽性でした。院内感染を防ぐために、入院患者の受持ち医を 2 名に限定し、看護師も感染防御を徹底してきましたので、コメディカルも含めて診療に関連して感染した職員は一人もおりません。残念ながら病院の外で家族などから感染した職員がおりましたが、幸い常にマスクを着用し三密を避ける行動をとっていただけましたので院内感染を引き起こすことはありませんでした。感染した職員も既に職場に復帰しております。メンタル面にも配慮して対応しており元気に仕事をしています。新型コロナはすぐにはなくならないでしょうから、引き続き院内感染に注意しながら対応してまいります。

次に、今年度の当院の診療体制についてご報告いたします。

今年 4 月に下山循環器内科主任部長と濱口糖尿病センター長が新しく診療部長に就任しました。これで三木診療部長と併せて 3 名体制になりました。副院長は昨年同様、筒井、中井、森田の 3 名体制です。

三好精神科主任部長が 4 月に着任しました。入院患者の精神科診療が中心で、臨床倫理的な問題や ACP（アドバンスケアプランニング）をサポートするリエゾンチーム、老年内科と一緒にあった認知症サポートチームなどで活躍しています。

今年 1 月には循環器内科にカテーテル治療のエキスパートが着任し、これまで以上に不整脈治療などのカテーテル治療が充実いたしました。

また、この後の地域医療連携懇談会で中村老年内科主任部長が話題提供いたしますが、10 月 1 日に当院が阪神北圏域の認知症疾患医療センターに指定されました。

お蔭様で本年度も医科 10 名と歯科 1 名の臨床研修医を迎えることができました。今年は初めて大阪大学とのたすき掛けの臨床研修医を受け入れていますので、医科は 11 名の研修医が在籍しています。新型コロナのために 2 年目の研修医の地域研修がしばらく行えない状況でしたが、これから年度後半に集中してお世話になる予定です。ご協力のほどをお願いいたします。ちなみに来年度の定員は、歯科は 1 名のみですが、残念ながら医科は 10 名から 9 名に減りました。今年の採用試験には歯科が 3 名、医科が 38 名受験してくれました。近々マッチングの最終結果が発表される予定です。

本日は本当にありがとうございました。新型コロナに振り回された今年度前半でしたが、今後とも市立伊丹病院へのご支援のほどをお願い申し上げます。

■ 謝辞

本日は大変お忙しい中ご出席いただき、また、適正なご意見をいただき感謝申し上げます。

飯石浩康病院長から病院の診療についての説明に加えて閉会の挨拶を述べさせていただきましたので、私からは「市立伊丹病院と公立学校共済組合近畿中央病院の統合」についてのこれまでの経過と、現在の状況をお知らせして謝辞に代えさせていただきますと存じます。

平成 30 年に「市立伊丹病院あり方検討委員会」を大阪大学心臓血管外科教授の澤 芳樹教授に委員長をお願いし、平成 31 年 2 月 5 日には公立学校共済組合近畿中央病院との統合を踏まえた検討をするようにとの提言をいただきました。

そこで両病院の統合の可否を検討することを目的として、令和元年度「市立伊丹病院と公立学校共済組合近畿中央病院の統合検討会議」を設置し、協議を行ってきました。協議の結果、統合後も伊丹市民が必要とする医療の提供と、公立学校共済組合の組合員が必要とする職域機能の提供を今後も安定的に継続していくことが出来ると判断し、統合を可とする結論に至りました。そこで令和 2 年 4 月 1 日「市立伊丹病院と公立学校共済組合近畿中央病院の統合に関する基本協定書」を締結しました。

これを受けて、再度澤 芳樹先生と大阪大学脳神経外科教授貴島晴彦先生にお願いして、令和 2 年 5 月に「市立伊丹病院・公立学校共済組合近畿中央病院統合委員会」を立ち上げていただき、これまでに 5 月と 8 月に委員会を開催しております。

また、両病院の各診療科等には「各ワーキンググループ」を立ち上げていただき、それを「市立伊丹病院・近畿中央病院 統括部門ワーキンググループ」の会にて纏めるようにしております。

今後は、この基本協定書と「統合委員会」の答申を受けて、新病院の早期整備に向けて、具体的な診療機能、診療体制等について、協議を行っていきます。なお、現在は基本設計の作成中とお考えください。また、参考としてパンフレット資料を付けていますので、後でご確認してください。

本日は令和 2 年度 第 1 回市立伊丹病院地域医療支援委員会に参加いただき、誠にありがとうございました。

別紙のとおり「令和2年度第1回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として作成する。

作成者

令和 2 年 11 月 2 日

志村史郎



別紙のとおり「令和2年度第1回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として確認する。

議事録署名人

令和 2 年 11 月 6 日

福井浩次



議事録署名人

令和 2 年 11 月 10 日

飯岡良治

